



NO /  
12

## 京都の繁華街で自然を感じ、環境への意識を促す

### GOOD NATURE HOTEL KYOTO

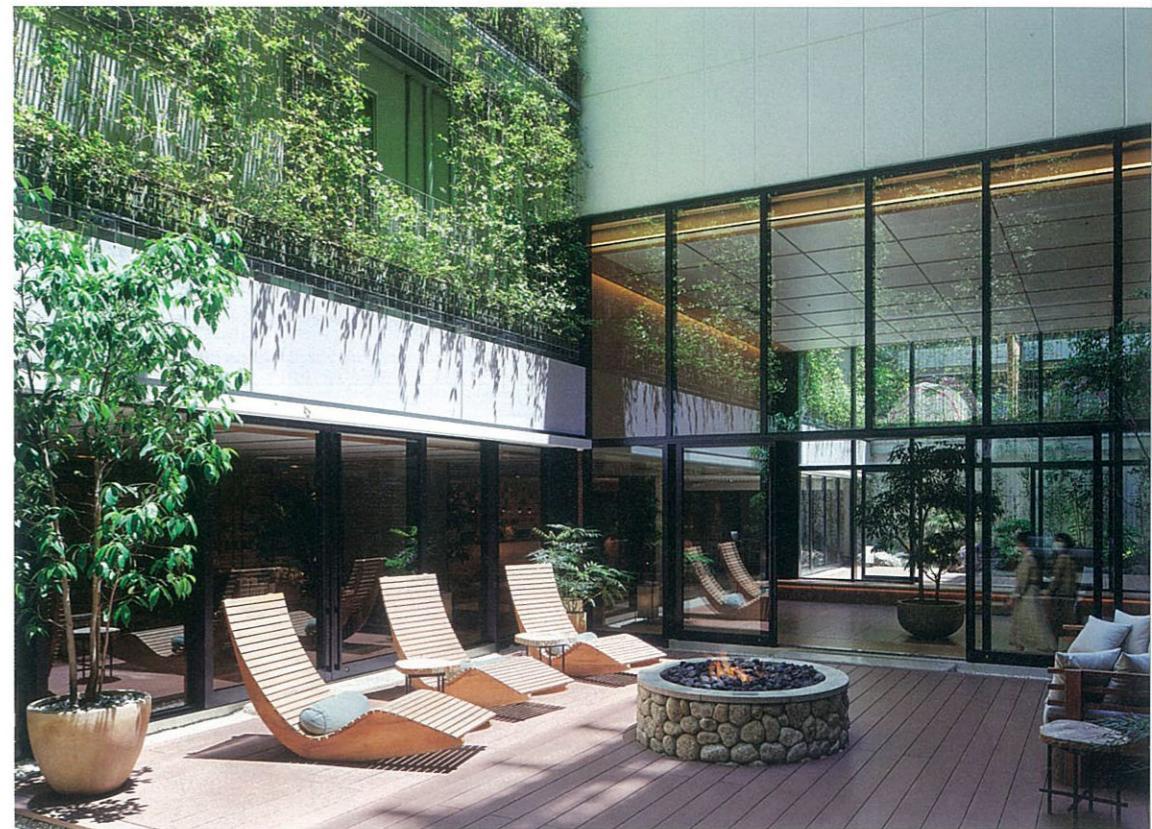


設計／内装 design farm DRIP 藤井崇司 滝口翔太 藤木慶一 中野晴風  
建築基本設計・設計監理監修 東畑建築事務所 岡島博明 大谷健司 松森綾江  
建築実施設計・工事監理 大林組一級建築士事務所 伊藤直幸 箕浦浩樹  
植栽計画／タイナカ\_オフィス  
ゴバイミドリ(壁面緑化)  
撮影／志摩大輔(P.105のみ)、近藤泰岳(P.106~108)



中庭1を見上げる。手前はロビーとして、奥はレストランの客席として使用される。4階から9階までの吹き抜け4面にウォールカーテンの緑化をしている。壁面緑化は、ゴバイミドリが手掛けた

中庭1からロビー越しに中庭2方向を見る。中庭と室内のグリーンが連続する



#### "WONDER OF NATURE" with essence of kyoto

「人にも、自然にも、良いものを」。我慢するのではなく、楽しみながら自分らしく取り入れるライフスタイル「GOOD NATURE」をコンセプトに、複合商業施設「GOOD NATURE STATION(グッドネイチャーステーション)」は誕生した。施設の4階から9階までを占有するホテルでは、「“WONDER OF NATURE” with essence of Kyoto」と題し、京都の風土や景色、文化、人、歴史のエッセンスを抽出。「悠：悠久の都としての京都の歴史、滞在する際のゆったりとしたくつ

ろぎ」、「遊：自然との戯れやビオの思想を愉しんで取り組むということ」、「結：人とモノ、人と人との結びつきを誘発する仕掛け」というように、「ゆう」=悠・遊・結という言葉を当て込み、空間に練り込んでいった。

ロビーフロアには空の見える中庭があり、4階から9階までの吹き抜け4面を緑化している。京都の繁華街の中心に居ながら、その喧騒を忘れて自然を体感できる空間として、ホテルの顔となっている。また、ワークショップに対応するスペースやギャラリーが併設さ

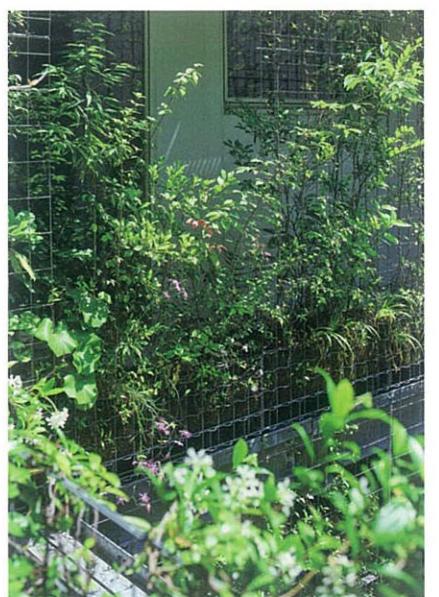
れおり、「GOOD NATURE」というコンセプトを軸にした企画が定期的に催されている。ホテルフロア以下の階層には、エシカルやサステイナブルに配慮したマーケットやレストラン、コスメショップ、スパなどを配し、一貫したコンセプトの下、ホテルとの相乗効果を生んでいる。こうした環境や社会に貢献する取り組みによって、館内全体を利用された方の意識が、「GOOD NATURE」な方向に少しずつシフトしていくきっかけになればと願う。(藤井崇司／design farm DRiP)

壁面は緑化ユニットによる。京都の在来種リストから、環境に適応する植物を選定して混植。4～7階はティカカズラをメインに、日照が期待できる8、9階には低木や地被植物が、計92種類植えられている

#### —( GREEN DESINER'S VOICE )—

中庭の壁面緑化は、京都の町家にある坪庭のように、ホテルの中央につくられた吹き抜けの空間をみどりで囲うデザインになっています。四方を囲われており、下層階(4階～7階)は日照がとれないため、耐陰性のツル植物を植栽。日照の期待できる8、9階には低木や地被植物が混植されています。これらの植物は、京都市の潜在自然植生と京都市緑化協会・推奨在来植物リストをベースに選定。GOOD NATURE HOTELの名前の通り、京都らしい自然＝植生を垂直面に再生・展開しています。

(宮田生美／ゴバイミドリ)



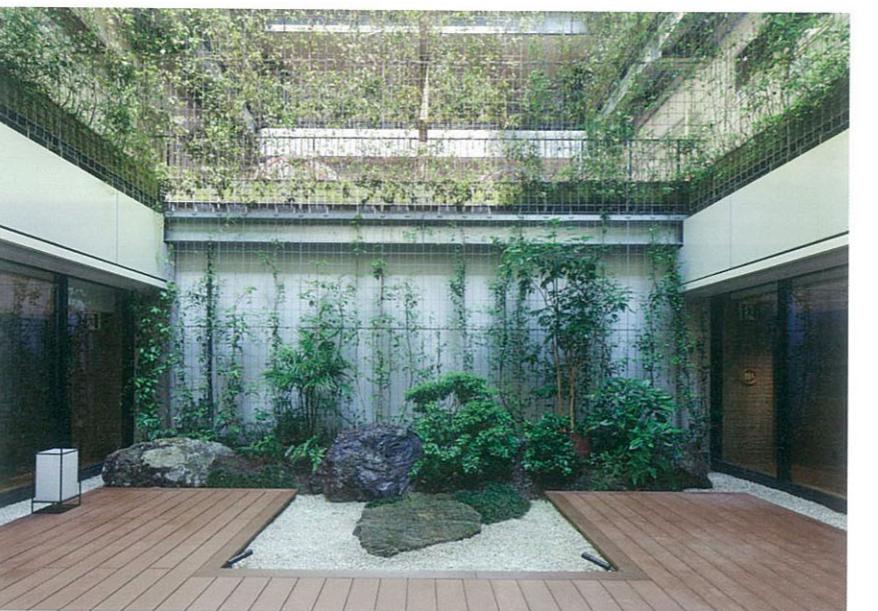


—( GREEN DESINER'S VOICE )—

4階のホテルエントランス(P.105)は、中庭に接していることから、自然光や風を感じる第二の大地としています。施設全体のコンセプトと在来種の壁面緑化に寄り添い、中庭やバルコニーは京都に自生する常緑樹とし、自然光が入る室内は、外と連続させるため外木に似たリーフが小さく自然樹形の観葉植物を選定。盆栽も松に見立てた観葉植物に。ボタニカルルームは、植栽管理の視点から生木鉢の数を限定し、リーフの大きさや樹高、設置位置など視点場から緑量を多く見せる配置としています。またバスルームとパウダールーム、ベットルームを緑でつなげることで奥行きとさまざまなシーンを生み出し、客室での滞在時間が豊かなものとなるよう計画しました。

〈對中剛大／タイナカ\_オフィス〉

中庭に面したテラスを持つ客室「ガーデンビューテラスツイン」。客室には、座ってくつろぐ日本のスタイルを実現するための大きなソファが置かれている。京都の絵師、福井安紀氏が京都の名所の桜や松、紅葉を141室の客室全てに即興で描いている。



上／既存客室を植物でディスプレイし、2021年5月から宿泊プラン販売を開始した「ボタニカルルーム」。バスルームとパウダールーム、ベッドルームがグリーンでつながるよう計画(植栽デザイン／タイナカ\_オフィス、企画／野口一馬、貝原理沙、企画監修／POOL) 下／4階中庭2。タマシダやハイゴケ、ハイノキなどを配した枯山水を前に、ヨガなどのアクティビティーも行われる

— DATA —

所在地：京都府京都市下京区河原町通四条下ル2丁目  
福岡町318-6 GOOD NATURE STATION4~9階  
企画：ビオススタイル 山下剛史 熊代美徳 POOL  
小西利行 是永聰 小林麻衣子 内島来 信多一慶  
GOODTIME 明山淳也  
設計協力：グラフィックデザイン POOL 丹野英之  
高橋千佳 桑原加菜 照明計画 ニューライトボタリー  
壁画アート ふすま絵プロジェクト 福井安紀 ロビー  
フロア家具 メイクアンドシー 客室家具 オリバー  
ロビー・壁面インスタレーション ライズマティクス・  
アーキテクチャー 斎藤精一 ホテル備品セレクション 北澤みづき  
施工：内装 大林組 ビーハウス 建築 大林組  
植栽施工・管理：竹中庭園緑化 壁面緑化／ゴバイミドリ  
植栽管理方法・メンテナンス頻度：壁面緑化／自動灌水 2ヵ月に1回  
工事種別：内装のみ 新築  
床面積(ホテル部分)：1万81.83m<sup>2</sup> 4階1801.9m<sup>2</sup> 5階1643.79m<sup>2</sup> 6階1719.55m<sup>2</sup> 7階1624.41m<sup>2</sup> 8階1671.31m<sup>2</sup> 9階1620.87m<sup>2</sup>

工期：2018年3月20日～2019年11月30日

— 営業内容 —

開業：2019年12月9日  
チェックイン／アウト：午後3時／午前11時  
電話：(075) 352-6730  
経営者：株式会社ビオススタイル  
客室数：141室(うちツイン・ダブル130室 スイート11室)  
主な客室料金：5万円

— 主な仕上げ材料 —

外部柱：セメントボード下地土壁調左官仕上げ  
外部床：中庭／デッキ材貼り  
中庭壁面：ALC100下地防水形複層塗材仕上げ アルミサッシ二次電解着色仕上げ 緑化ユニット(ゴバイミドリ)  
床：特注オーク材フローリング貼り 磁器質タイル貼り  
幅木：オーク材貼り  
壁：杉材不燃板貼り 特注オーク材化粧合板貼り 和紙貼り 磁器質タイル貼り  
天井：杉材不燃板貼り AEP

— 植栽リスト —  
■ 壁面緑化  
〈側面植栽〉 テイカカズラ

〈上面植栽〉  
ツル性植物／テイカカズラ、トウトイカ、キヅタ、ムベ、サネカズラ、カザグルマ  
低木・常緑／アラカシ、カクレミノ、カナメモチ、サカキ、シラカシ、シロダモ、ソヨゴ、タブノキ、ツクバネガシ、ネズミモチ、ヒサンカキ、モチノキ、ヤブニッケイ、ユズリハ、アオキ、アセビ、シャシャンボ、シャリンバイ、他  
低木・落葉／アオハダ、エゴノキ、クヌギ、コナラ、ネジキ、リョウブ、イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、コナラ、コバノガマズミ、コマユミ、サワフタギ、アジサイ、アブラチャン、アベマキ、イタヤカエデ、ウツギ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、ガクアジサイ、ガマズミ、クサボケ、クチナシ、クロモジ、コハウチワカエデ、他  
地被・草花／オカトラノオ、オミナエシ、カラナデシコ、キキョウ、キチジョウソウ、ゲンノショウコ、コバギボウシ、シモツケ、シャガ、セキショウ、ツワブキ、ノカンゾウ、ノコングク、ノシラン、ヒメシャガ、他

■ 4F  
〈ロビー〉  
ベンジャミンストリクタ、エバーフレッシュ、シロチク、ネフロレビスペチコート、アジアンタム、盆栽

〈客室バルコニー〉  
ソヨゴ、トキワシノブ、セラギネラ、アメリカハイビアクシン、ハイノキ、シマトネリコ、常緑ヤマボウシ

〈中庭1〉  
常緑ヤマボウシ、マホニアコンフューザ、ソヨゴ、アセビ、ハイノキ

〈中庭2〉  
ソヨゴ、ハイノキ、アセビ、アオキ、タマシダ、オニヤブソツツ、センリョウ、タマリュウ、ハイゴケ

■ 8F  
〈ボタニカルルーム〉  
ライムポトス、シェフレラコンパクタ、バキラ、モンステラ、アルテシマ、ウンベラータ、他

